opusdei.org

# オプス・デイの協力 者、短い証言の9

ペルー、ロシア、スペイン、 ドイツ、オーストリア、アル ゼンチンの協力者の証言を紹 介します。

2016/03/29

### 何かのお返しを期待せずに

ラケル・モラン

ペルー在住

主婦・五人の子どもの母

聖ホセマリアは私の人生に大きな影 響を与えました。お返しを何も望ま ずに什える模範を見て、オプス・デ イの協同の使徒職事業であるコンド ライ農業支援センターの運営委員と なり、人々の自己充足と成長のため の手助けをするようになりました。 また、この聖人にたくさんの取次ぎ をしていただきました。娘のナオミ は聖ホセマリアのお蔭で生まれまし た。彼女を妊娠中、健康の悪化を理 中に医師から中絶を勧められました が、聖人の取次ぎを通して奇跡を願 い、それがかなえられました。最悪 の場合の責任は自分にあるという書 類に署名させられましたが、ナオミ は無事に生まれてきました。その後 生まれてきた息子には、感謝の気持 ちを込めて、ホセマリアと名付けま した。

#### 私のために書かれた言葉

セルゲイ・ビジウクリン

リアザン (ロシア) 在住

正教徒・歴史学者

論文を書き終える数カ月前に、キリ スト教の信仰と出会いました。その 後、とてもいい仕事を二つ得ること ができましたが、何かが足りないと 感じていました。もっと偉大なこ と、もっと面白いことができると考 えていたのです。この迷路にいたと き、インターネットで聖ホセマリア の言葉に出会ったのです。短い言葉 でしたが、魅かれるものを感じ、実 践に移すように促されました。まる で、私のために書かれた言葉のよう でした。日常生活の中で神様と出会 うことを学んでからは、仕事への姿 勢が変わりました。何のためにする のかを理解でき、質の高い仕事を自 分に要求するようになりました。今

では、いい加減な仕事をしたり、やるべきことのリストを単に消化していくためだけに働くことは考えられません。神様のための仕事なのですから。

**修道会の中で**シスター マリア・ヘス ス・ベラルデ

ガラパガル(スペイン)の修道院に 在住

イエスのみ心の聖マリア姉妹会の創立者・総長

一九八五年、聖ホセマリアの最初の 後継者であるドン・アルバロ・デ ル・ポルティーリョ司教と知り合い ました。私にとって父親のような方 で、修道会の法的手続きに関して貴 重な助言を与えてくださいました。 公会議後の時代にあって、教会の教

えと修道精神の堅持に忠実であり続 けたいという私たちの望みの支え を、オプス・デイからたくさん受け ました。オプス・デイの霊的糧から 多くのものをいただいたことへの、 一番いい感謝と答えは、お祈りする ことを正式に表明することだと考え ました。以来、創立してきた各修道 院を協力者として任命してくださる ように求めてきました。私たちの協 力は、何よりも祈ることです。毎 日、司祭の聖化のために私たちの生 活を捧げています。私たちの意向の 中には、特にオプス・デイの使徒的 活動が入っています。私にとって、 こうして協力することは、教会にお ける神の業を支え、そこから霊的益 を受けることです。確かに、オプ ス・デイの目指すものと、奉献生活 の会のそれとは違いますが、神様が 呼ばれる道において聖性を求めるこ とが大切なのであり、それぞれのカ リスマを尊重しつつ、互いに支え合 うことが重要なのです。

#### ガソリンスタンドのように

クリスチャン・ヴィルケ

ファルケンシュタイン (ドイツ) 在 住

#### 刑務所の医務員

私は、ルーテル派の伝統がある地域 で生まれ育ちました。二〇〇五年四 月十九日、ドイツ人が教皇に選ばれ たと、私の叔父が知らせてくれまし た。それまでカトリックについては 全く興味を持ったことがありません でしたが、好奇心からテレビをつけ ました。その日以来、教皇様の言葉 が頭を離れず、信仰と教会について 考え続けました。カトリック教会の カテキズムを買って読み始めてみる と、以前からずっと疑問に思ってい た様々な点についての答を得ること ができました。ある日、インター

ネットで本屋のサイトを見ていたと き、『道』という題名の本が目につ き、購入して読み、自分の居場所は カトリック教会であるとはっきり分 かりました。近所の教会に通うよう になり、二〇〇七年に堅信の秘跡を 受けました。聖ホセマリアの他の著 書を買い求め、インターネットから オプス・デイについての情報を得ま した。聖ホセマリアの伝記の発表会 がケルンで行われることを知り、父 親と一緒に出掛け、その後、形成の 活動に参加するようになりました が、中でも黙想会は、私の人生をと ても豊かにしてくれるものとなりま した。それは、日常生活を進んでい く霊魂のためのガソリンスタンドの ようなものです。私の方からも何か オプス・デイのためにしなければな らないと考え、オプス・デイの人た ちに相談して、協力者になることを 決心しました。

#### すべて微笑みながら

マリア・スペンゲル

グラーツ (オーストリア) 在住

幼稚園教諭

形成の活動に参加するようになって 以来、受け取るばかりで何もお返し ができないと度々感じていました。 今は、協力者としてわずかな協力が できていますが、やはり私の日常生 活を聖化し、そのすべてを微笑みな がらするための助けを受けていま す。私にとって、祈りのうちに毎日 の生活を秩序正しく生きることは、 ひとつの挑戦です。起床し、祈り、 子どもの世話をし、買い物に行き、 家事を片付け、山ほどの洗濯物と格 闘し、食事の準備をする…。つま り、優先順位に従って秩序づけるこ とです。学んだことの中で最も大切 なのは、周囲の人々、特に苦しんで 助けを求めている人たちの中に、あ

るいは付き合いを通して感じる素晴らしさや幸福の中に、神様を見つけることです。聖ホセマリアのメッセージを黙想していると、利己主義から解放された人は、本当に自由、寛大で、人々との付き合いの中に人間的な豊かさを与えることがつかります。

## 第一の受益者は自分

アレハンドロ・エミリオ・カナー レ・ベッケル

ブエノスアイレス(アルゼンチン) 在住

「出会いの家」とマプフレ財団に勤 務

利己主義に聞こえるかもしれませんが、協力者になることは、まず私自

身に益あることです。使徒職をしな い、オプス・デイとつながっていな い私の人生は考えられません。聖ホ セマリアの言葉やエピソードを繰り 返している自分に気づくことがよく あります。彼の精神の中で特に二つ の点に魅かれています。手が届かな いように思えることに立ち向かい、 嫌なことも受け入れるための勇気 と、神の手中にあると確信する信頼 です。神なしでは、何もできません が、神と共にあれば、不可能に思え ることも実現できます。この二点 は、最も大切な一点に集約できるで しょう。祈りにおける神との一致で す。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shougen-9/ (2025/12/13)